



3月行事と解説

3月の季語：早春/春暖/仲春/春雪/雪解け
・早春の候 ・春近づく頃 ・ひな祭りも過ぎ など



♣田原まちなか

雑祭り開催中です！

2月3日(土)～3月4日(日)
お米工房こめっとも参加してま
すので是非ご覧ください。



身のけがれを祓うことが始まり ひな祭り

中国では、3月の最初の巳(み)の日は忌日とされ、不浄・邪気・けがれなどの恐ろしいものが襲ってくるといわれた日でした。家の中にいると人の災難が降りかかってくるというので、人々は老若男女にかかわらず家を出て水辺へ行き、みそぎをしました。

このとき、人形(ひとがた)を作って、それで体をさすり、身のけがれを移して供物と一緒に水に流して厄払いをしたものです。この人形(ひとがた)が、次第に手の込んだ立派な人形(にんぎょう)になって行きました。これがいわゆる「流しびな」の始まりです。

また、平安時代には、上流階級の子女が美しい人形で遊ぶ「ひいな遊び」という、ままごとに近い遊びがあり、この両方が結びついて、現在のひな祭りになっていったとされています。

ひな人形のしまい方

ひな人形は、3月3日の二週間ぐらい前から飾りますが、一夜飾り(前日に飾ること)は避けましょう。また、節句が終わったら、その翌日にはしまったほうが良いといわれています。

これは、いつまでも出しておくると婚期が遅れる、などと昔の女性の暮らしを考えさせる言い伝えです。保存場所は、湿気が少なく、風通しの良い場所を選びましょう。

祖先の霊を供養する日 お彼岸

彼岸と言うのは仏教の言葉で、この世を「此岸(しがん)」と呼び、仏の住む世界を「彼岸」といったのです。

極楽浄土(あの世)は西方にあるといわれますが、太陽が真西に沈む彼岸の日は、先祖たちが住んでいる世界と、この世が交流できる日だと考えられ、祖先の霊を供養する仏事が行われるならわしとなりました。

お彼岸にはおはぎをたくさん作り、近所に配る習慣もありました。春は牡丹餅(ぼたもち)、秋はお萩(おはぎ)と呼ばれ、春は大きく、秋は小ぶりに作ったようです。



3月の花：桃